

【ESD学習支援活動】

奈良市立東市小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修 学部1回生 後藤旭

1. 実施日 平成30年9月20日(木)～21日(金) ※支援は9月20日(木)のみ
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター(奈良県奈良市阪原町25-1)
3. 参加者 後藤旭、木多彩菜、櫛乃里花(学部生)、谷垣徹(大学院生)
4. 活動支援内容

平成30年9月20日、奈良市青少年野外活動センターにて奈良市立東市小学校の野外活動が行われ、ユネスコクラブが支援を行った。支援内容は、屋内でのオリエンテーリング、アイスブレイキング、野外炊飯、雨天のためのキャンドルファイヤーである。

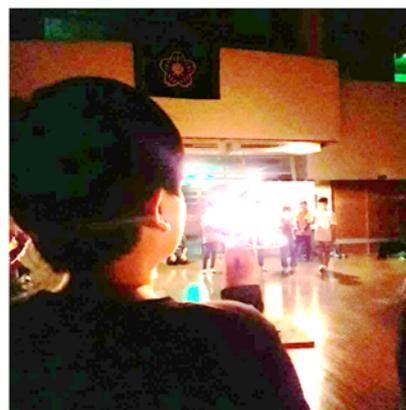
今回の活動支援で、私は3つのことを学んだ。1つ目は子どもたちと関わる時間の大切さ、2つ目は臨機応変に動くことの必要性、そして3つ目は先生方とのコミュニケーションの重要性である。

1つ目の子どもたちと関わる時間の大切さについてである。今回は、私にとって初めての一日を通じた支援だったので、とても緊張していた。子どもたちとの距離感が掴めず焦っていたが、子どもたちからアプローチしてくれてくれた。これまでの午後からの支援の時に比べて子どもたちとコミュニケーションを取る時間が多く、お互いに適度な距離感を取りつつ打ち解けることができた。子どもたちとの信頼関係も深くなったと感じた。そして、子どもたちの名前や性格の特徴などをいつもより把握することができた。やはり時間をかけた方が子どもたちとしっかり向き合うことができることを、支援を通して実感できた。

2つ目の臨機応変に動くことの必要性についてだ。私にとって、初めてのキャンドルファイヤーだった。キャンプファイヤーとは違い、ゲーム等を行う際にもどんな雰囲気でも臨めばよいか分からなかった。先輩や経験のある同回生にアドバイスをもらいながらなんとか成功させることができた。初めての経験だとしても、もらったアドバイスと自分の経験を活用して臨機応変に動くことが大切だと感じた。子どもたちも盛り上がりしてくれた。子どもたちから「キャンドルファイヤー楽しかった」と言ってもらえた時には、一生懸命やってよかったと思うことができた。

最後は、先生方とのコミュニケーションの重要性についてだ。当日雨天だったため、当初の予定を変更するところが多くあった。しかし、子どもたちもいるため、まとまった時間をとることができず、プログラムの合間を縫って打ち合わせを行った。先生方と学生の考えていることを共有しておくことは重要だ。短い時間でも、しっかりと先生方とコミュニケーションを取り、詳細を素早く確認することがとても大切であると感じた。

今回の野外活動支援は初めての経験が多く、先生や先輩にたくさん助けってもらった。今回学んだことを、自分のものにして次の活動に活かしていきたい。そして教員になった時、子どもたちと時間をかけてまっすぐ向き合っていきたいと感じた。



キャンドルファイヤー